

# 特定非営利活動法人ひとまちあーと

## 2021年度事業報告書

(自)2021年4月1日～(至)2022年3月31日

### 令和3年度事業を振り返って(総括)

アートシーン事業は、各グループ組織との関りシロ(教育・建物活用・イベント)を多くもつことができる組織間連携にとっても重要な事業になった。協賛金も頂くことができ、事務局運営や企画進行していく体制をとることができた。

西播磨各地のまちづくりプレイヤーとの連携もビズトープ事業を通じ、ここ数年で種まきが進んでおり、共に学び西播磨全体の底上げに繋げつつある。

### 《コトづくり事業》

#### 01、たつのアートシーン事務局業務

##### <目的>

芸術文化に造詣の深い町になることを目指し、未来の“郷土を想う人材”を育む

##### <活動内容>

本事業実施にあたり初年度の今年は、事務局の体制作りと資金集め及びイベントをカタチにすることが目標だった。たつの市内で実施されるイベントの多くはボランティア体制で運営され、補助金を資金として活動している場合、事務局運営費が出ないためスタッフに負担のかかる運営体制に陥りがちである。また、イベントごとに発信媒体がバラバラかつ情報が散在しているため、地域一体としての発信力が弱いので受取手に情報が伝わりにくいという課題があった。これらの解決策として、プラットフォーム型の事務局を設置し、各イベント団体の事務作業及び広報及び資金集めを総括して行い、効率的なイベント運営を目指すべくたつのアートシーン事務局として動き出した。資金面では、活動に共感して頂いた地域企業さまから協賛を募り事務局人件費を確保したことで、ボランティア体制から有給スタッフ体制へシフトチェンジ。広報面では、地域の同時期開催イベントをまとめて発信し、その日程が被らないよう調整して開催するなど、情報の受取側にも分かりやすい発信を心掛けた。これらの事務局業務の取りまとめによって、作家やアーティストが作品作りに専念できる環境作りを目指し、事務局運営体制の基礎を作る1年となった。1つの大きなイベントを組織体で進めていくことの大変さや、チームワークやコミュニケーションの大切さなど多くの学びを得た。

また、開会式では市及び県の行政の方々に来賓ご挨拶を賜り、会場となった「あの劇場」の前所有者であるカネヅ醤油株式会社の社長さまからも、こころ温まるお言葉を頂き、醤油蔵を「文化交流劇場」として引継いだことの重みを感じた。

##### <開催情報>

会 場：あの劇場(旧カネヅ醤油)、クラテラスたつの、自家焙煎珈琲わのわ、聚遠亭  
ガレリアアーツ&ティー、三軒長屋おくの蔵、赤とんぼ文化ホール、かどめ公園東屋  
会 期：2021年11月3日(祝・水)～11月29日(月)  
公 演：龍野国際映像祭、山展、能舞台、現代劇、文化対談、ジャズライブ  
和太鼓演奏、人形芝居、三木露風コンサート、赤とんぼライブ  
来場者数：計13,509名(来街者数：概ね80,000名)

広報活動：印刷物（チラシ 30,000 部、ポスター350 部、ガイドブック 5,000 部）  
ラジオ宣伝（出演 2 回、PR 放送 25 本）  
公式 HP（<https://www.tatsuno-artscene.jp>）  
映像制作・YouTube 配信（地域プロモーション 2 本、公式 PV2 本、他）  
テレビ放送（11 月 27 日放送 サンテレビ「サタデー9」）  
新聞記事 6 記事掲載（神戸新聞、産経新聞、読売新聞、朝日新聞）  
ネット記事 8 件掲載（新聞社、行政、協賛企業、後援組織）

<助成金>

- ・アートによる地域振興助成（公益財団法人 福武財団）
- ・日本万国博覧会記念基金事業（公益財団法人 関西・大阪二十一世紀協会）
- ・ポーランド広報文化センター（ポーランド広報文化センター）

<委託金>

文化庁「ウィズコロナに対応した文化資源の高付加価値化促進事業」  
（東急メディア・コミュニケーション株式会社）

<協賛金>

株式会社ワンステップ、株式会社宍粟住建、龍野コルク工業株式会社、株式会社緑葉社、一般社団法人はりまのこ、有限会社スローライフ、日本丸天醤油株式会社、株式会社 山弘、夙川能舞台瓦照苑、社会福祉法人こどもの国

## 02、 たつの観光プロモーション事業

<目的>

たつの市の歴史的景観・文化・風習の価値の理解者を増やし、これらの活動に地域の人々が積極的に携わる環境作りをする

<内容>

当初からの目標として、イベント実施団体（又は講師）の自立したイベント運営と受入体制の構築があった。実施団体（又は講師）での事務作業や広報面の活動を強化していくことが課題だった。2021 年度をもって当法人での本事業の活動を終了し、実施団体（又は講師）は、2022 年度以降は自主開催し、これまで培ってきた体験イベントの経験と知識を活かしながら継続していく。

2021 年度の実施内容としては、昨年に引き続き感染症対策を講じながら、イベント実施団体（又は講師）の自主性を尊重し、事務局運営を行った。予約窓口の幅を広げるため、新しくレジャー予約サイト「アソビュー」へ登録し、アプローチの弱かった市外・県外への発信を強化した。また「あがりがまち」の Facebook ページから定期的に地域の店舗情報等の発信を来街者へ行った。実施団体（又は講師）は、満足度の高い対応でリピーターを増加させ、積極的に企画イベントを実施をするなど意欲的な姿勢が見え、次年度からの実施の準備を着実に進めていった。当法人としても引き続きまちづくり事業の中で連携やサポートを行っていく。

<補助金>

たつの観光プロモーション事業（たつの市）

### 03、ムカシミライ学校

<目的>

先人たちの知恵や努力を知り、まちづくりに活かす

<内容>

地域の方にお話しを聞く活動はコロナ禍で実施が難しかったが、西播磨ビズトープ事業で実施したムカシミライ学校まちづくり勉強会やたつのアートシーン事務局事業の実施に伴い、地域の方にたくさんお会いし、お話をする機会が多かった。草の根の活動として今後も継続していきたい。

<補助金・助成金・委託金・協賛金>なし

### 04、川原町まちや案内所「あがりがまち」

<目的>

龍野の歴史的景観・文化・風習を尊重し、その価値を伝播していく

<内容>

本格的に案内所兼株式会社 masumasu が運営する「城下町古民家ホテル kurasu」の受付フロントとして始動したが、コロナ禍の影響で例年のようなイベント活動は少なかった。観光プロモーション事業の受付窓口業務や龍野川西商店会主催の「コロナに負けるな！20%還元キャンペーン」では、日山事務所が閉まっている週末の事務局作業のフォローをあがりがまちで行った。案内所兼フロントデスクという認知度が少しずつ高まるにつれて、観光客だけではなく、例年よりも町の詳細に興味が高い来訪者が増えた。こうしたことから株式会社 masumasu のスタッフもひとまちあーとやグループ会社の活動に興味を示すようになり、今後の連携に期待出来そうだ。※店舗スタッフは、案内所業務とホテルフロント業務を兼任

(来場者：延べ3,082名 / 運営時間：毎週水~日 10時~16時)

<補助金・助成金・委託金・協賛金>なし

### 05、ふるさと事業

コミュニティーの場の形成と事業継続のための売上アップを目標に様々な企画や対策を試してきたが、コロナ禍の影響も大きく売り上げが大幅に減少したことにより、6月末で閉店とした。最後にお世話になった関係者の皆様へ今までの感謝の気持ちを込めたパンフレット「ふるさと5年間の歩み」を配布した。

物件から退去するため、現在他の事業の合間を縫って清掃作業を続けている。

オープン前からクラウドファンディングでの資金調達や、ボランティア・仲間集め、スタッフ管理、自分達での経営・運営と山あり谷ありの5年間で得られたことが本当に沢山あった。この5年を振り返ることで原点に戻り、初心を忘れずに来年度の様々な事業を乗り越えていく糧にしていきたい。

## 《未来づくり事業》

### 西播磨ビズトープ事業

#### <目的>

遊休資源を活用し播磨各地の多様な暮らしに寄り添った次世代のビジネスが育ちやすい総合的な環境作りを目指し、大学や金融機関などと連携し、播磨各地でまちづくり会社と事業会社の立ち上げのサポートを行いネットワーク化していく

### 01、アップサイクルプロジェクト

#### <目的>

空き家改修で出る古材や残置物を、歴史的背景を尊重しながら新しいカタチで活用し、価値を継承していく

#### <内容>

地域で以前営業していた店舗から出てきた椅子や醤油ケースなどの材を利活用し、新たな椅子へとアップサイクルさせるワークショップを兵庫県立大生と一緒に実施。できた椅子は、「たつのアートシーン 2021」のイベント会場の1箇所で鑑賞座席として設置。また、相生のオオノナンデモ屋の事務所で相生居住の明石高専生たちとアップサイクル椅子を作成、住民の「たまり場」を作る目的で町中に設置。

#### <イベント実施概要>

第1回 2021年10月30日 場所：三軒長屋の奥の蔵 参加人数：6名

第2回 2022年2月6日 場所：相生ベース 参加人数：9名

#### <補助金>

大学との連携による地域創生活動支援事業（西播磨県民局）

#### <委託金>

兵庫県立大学事業委託（兵庫県立大学）

#### <寄付金>

兵庫県立大学事業委託（JA 共済連兵庫）

### 02、たつのイベント運営プラットフォーム創出事業

#### <目的>

地域でイベントを運営する任意団体が抱える「補助金頼りのボランティア運営体質」という課題に対して、各団体の事務作業・広報・資金集めを統一して行う事務局を設置し、資金的に事務局運営をサポートする実行委員会の組成。

#### <内容>

実証事例として豊岡市の「豊岡アートシーズン」や岐阜県岐阜市「長良川おんぱく」へ視察に赴いた。事務局はイベントに向け運営体制を整えていった。また実行委員会メンバー組成のため、昨年度から実施している「ムカシミライ学校まちづくり勉強会」を開催し、西播磨各地から地域の企業や事業者やまちづくり関係者を集めて、「プラットフォーム型実行委員会」が持続可能なイベント事務局のカギになるということを共有した。

#### (視察)

鳥の劇場、いんしゅう鹿野まちづくり協議会、出石永楽館、城崎国際アートセンター、豊岡演

劇祭実行委員長、公立芸術文化観光専門職大学

(実施企画)

第1回「岐阜の地域商社事例勉強会」

開催日：2021年11月11日(木) 場所：みの劇場

講師：NPO法人ORGAN 代表 蒲勇介氏 参加人数：49名

第2回「小さな世界都市を目指したまちづくり」

開催日：2022年2月24日(木) 場所：みの劇場

講師：一般社団法人豊岡アートアクション 代表 中貝宗治氏 参加人数：34名

<助成金>

ボランティア基金助成金 中間支援助成(基本事業・企画事業)

(兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザ)

### 03、会計業務や広報などを中心としたひとまちあーとグループのバックオフィス業務

### 04、プロデュースデザイン業務

<目的>

地域の風土風習を継承し、過去から未来へとつなぐ町づくりに繋がるようなプロデュースデザインを行う

<内容>

商品の販促物やイベント告知チラシ・ポスターや店先の暖簾など、地域の事業者さんの店舗活性化のお手伝いをした。デザインを通して地域の店主や活動団体との輪を広げ、コミュニケーションを積み重ねていきたい。

<携わった地域事業者・団体>

SUSHI&VEGETABLE 心(新店舗)、竹田農園、多田周子氏、旧中川邸

ジビエ創作料理かのね、龍野地区まちづくり協議会、クラテラスたつの

<補助金・助成金・委託金・協賛金>なし

### 05、イベント受託

<イベント>

・結婚っていいなキャンペーン事業(西播磨県民局)

2021年度の結婚っていいなキャンペーンは、新規企画として交換日記お見合いを実施。100名以上の応募があり好評だった。またコロナ禍で初めて「ママハタ」の「赤ちゃん先生」授業をオンラインで全11回実施した。

<イベント>

・婚活力アップセミナー、専門職向けイベント

(公益財団法人兵庫青少年本部ひょうご出会いサポートセンター)

播磨エリアでのネットワーク形成(連携)

ひょうご市民活動協議会への参加

≪管理部≫

#### 01、 事務所運営

来訪者や外部スタッフや関係者の出入りが多い事務所で、多様な働き方に対応できる環境を整備した。大人数でのオンライン会議やフリーアドレス使いできるデスクやロッカー使いの BOX 設置など、安心安全で働きやすい仕事環境へと日々更新している。